

- 中央アフリカ共和国と南スーダンで紛争による深刻な飢餓
- 私たちの国連WFP支援 株式会社日本アクセス
- 知花くらさん 国連WFP日本大使に就任
- 国連WFPを支える人たち～国連WFP協会 横浜支部
- 関口泰衛 国連WFP協会 新事務局長 就任
- 「RED CUP CAMPAIGN」レポート
- フィリピン台風 緊急支援 御礼とご報告
- 「WFPウォーク・ザ・ワールド」参加者募集



中央アフリカ共和国と南スーダンで紛争による深刻な飢餓

いま、中央アフリカ共和国と南スーダン共和国で紛争による人道危機が発生し、深刻な飢餓が広がっています。

国連WFPの緊急支援活動には1から3まで3つのレベルがあり、最も急を要し大規模かつ複雑な、組織を挙げて取り組まなければならない緊急支援活動はレベル3と認定されます。上記の二つの国はシリア危機と並んでレベル3と認定されるほど、最悪の事態に陥っています。

もともと3割の家庭が食糧不足に苦しんでいた中央アフリカでは2013年3月に政変が起きて以降、イスラム教系勢力とキリスト教系勢力との間の武力衝突が激化しました。殺害、報復、略奪を恐れた多くの人々は家を逃げ出し、推定10万人が駆け込んだ首都バングの国際空港は避難民キャンプと化しました(写真)。9割の家庭は一日一食しか食べられていないと報告されており、特に武装勢力に包囲された地域では飢餓など人道状況の悪化が懸念されています。さらに、周辺国へ逃れる難民も急増しています。3月中旬時点で約60万人が国内で、28万人が周辺国で避難生活を余儀なくされています。

国連WFPは人々の命を守るため125万人を対象に食糧支援を行う計画で、活動を拡大させています。2月には国内で約23万人に米や豆などの食糧を届け、さらに5歳未満の子どもには

栄養不良の改善・予防のため特別な栄養強化ペーストを配っています。さらに、チャドなど周辺4カ国へも中央アフリカ難民への食糧支援を拡大中です。

南スーダンではキール大統領を支持する政府と、マシャール前副大統領を支持する反政府勢力の武力衝突が起きました。1月にはいったん停戦協定が結ばれましたが、その後も戦闘が発生し人道危機が続いていることから、3月中旬時点で国内で約71万人、周辺国で22万人が避難生活を送っています。

国連WFPは戦闘開始から数日で避難民に対する食糧支援を始め、3月初旬までに同国内で43万人に食糧を届けました。雑穀や豆、植物油、塩など一般的な食糧を配るほか、乳幼児や妊婦などへは栄養支援を行い、ケニアやエチオピアなど国外に逃れた南スーダン難民にも栄養強化ビスケットなどを配っています。

しかし、両国とも支援活動は難航しています。第一の問題は治安が悪いことです。中央アフリカではトラックの運転手が道中の襲撃を恐れるあまり輸送ができなくなる事態が発生。食糧の供給が滞り、支援用の食糧の備蓄が枯渇寸前となりました。その後、アフリカ連合による護衛の下、トラック数十台が輸送を完了しましたが困難な状況は変わらず、2月半ばにはカメルーンより食糧の空輸を始めました。空輸は経費が高く

つきますが、他に選択肢がありません。南スーダンでは国連WFPの倉庫や事務所が略奪に遭い、食糧や備品が盗まれました。略奪された食糧は4,600トン。28万人超の1カ月分の食糧に相当します。国連WFPは調査の上、略奪された食糧を可能な限り回収しようとしており、また支援を必要としている人たちに物資を届けることができるよう、全ての勢力に協力を求めています。

第二の問題は雨季の到来です。両国とも4月頃に雨季が始まると道路がぬかるむため、陸路での食糧輸送が困難となります。この時期は例年、食糧の備蓄が底を尽きる季節と重なることもあり、雨季到来前に各地への食糧の備蓄を進めなければなりません。しかし戦闘のためこの作業は難航しています。

さらに国連WFPは資金難に直面しています。今年に入って日本政府からは国連WFPの中央アフリカ支援に対し220万米ドル、南スーダン支援に対して460万米ドルの拠出金が迅速に供与され、活動に役立てられています。中央アフリカでは1億700万米ドル、南スーダンでは6億米ドルという多額の資金が必要です。そのうち、中央アフリカでは35%、南スーダンでは25%しか集まっていません(3月中旬現在)。暴力に苦しめられた人々がさらに食糧難に苦しむことのないよう、皆様の温かいご協力をよろしくお願いいたします。

知花くららさん 国連WFP日本大使に就任

昨年12月、WFP 国連世界食糧計画はモデルの知花くららさんを日本初となる「国連WFP日本大使」に任命しました。



知花くらら新国連WFP日本大使とエリザベス・ラスムーソン国連WFP事務局長

©WFP/Takako Kaneda

知花さんは沖縄出身、上智大学卒。教育哲学を専攻し、教育を世界に広めることに高い関心を持っていた知花さんは、子どもの栄養状態を改善し、就学率を向上させる国連WFPの「学校給食プログラム」を知って「一目惚れしたような気持ち」となったことがきっかけで、2007年にWFPオフィシャルサポーターに就任しました。

以来、毎年1回の活動現場視察を欠かさず、これまでに、干ばつに見舞われたザンビアの農村(2008年)、フィリピンの台風被害で家を失った

人たちのキャンプ(2009年)、紛争終結後のスリランカの村(2010年)、東日本大震災の津波の被災地(2011年)、タンザニアの貧困地域の学校(2012年)、そして母子栄養支援を行うエチオピアの保健所(2013年)を訪問。マスコミやイベントなどを通じて、現場で見たこと、聞いたこと、感じたことをご自身の言葉で語り、国連WFPの活動を広く伝えてきました。

2012年には、国連WFPの「学校給食プログラム」への協力を呼びかける公益社団法人ACジャパンの公共広告にも出演しました。

7年間、精力的に国連WFP支援を続けて来た知花さんに、今後より一層、活動を広めていただくため、正式に大使として任命することとしました。「大使」はこれまでの「オフィシャルサポーター」より一層関わり合いの深い正式な形のパートナーシップです。

12月に都内で行われた大使任命式では、エリザベス・ラスムーソン国連WFP事務局長が任命通知書を渡し、知花さんの貢献に対するお礼として2ユーロの国連WFP記念硬貨を贈りました。

知花さんは、「初心を忘れず情熱を持ってこれからも国連WFPの活動現場を伝えていきたい」「緊急支援の現場にも足を運びたい」と抱負を語りました。

知花さんの国連WFP支援活動について、詳しくはこちらからご覧ください。

<http://ja.wfp.org/about/celebrities/kurara-chibana>

関口泰衛 国連WFP協会 新事務局長 就任

昨年10月15日、関口泰衛(せきぐちやすえ)が国連WFP協会の事務局長に就任しました。新事務局長に聞きました。



国連WFPローマ本部で2月に開催された理事会に出席

©WFP/Giulio d'Adamo

Q.これまでのお仕事と、協会の事務局長に就いたきっかけ等を教えてください。

社会に出てからそのほとんどをメディア業界で過ごし、前職では国際メディア企業に20数年在籍し、北アジア地区(日本、韓国)の担当として、現地経済並びに企業情報の世界への発信の仕事に携わってきました。その間、国際メディアの報道する世界の飢餓と貧困のニュースに数々触れ、飢餓撲滅を目指す国連WFPの活動と理念に賛同し、ずっと個人的に支援して参りました。

2011年の東日本大震災で宮城県在住の親戚が被災したのをきっかけに、東北でのボランティア活動に参加し、その翌年には会社を退社、ボランティア活動を自分の生活の一部と位置づけ活動을続けて来ました。大震災以降、自

分が生ある間、社会に貢献できることは何かと常々考え活動をしている中、国連WFP協会の仕事を紹介されるご縁があり、事務局長の任をお受けしました。

Q.国連WFPの魅力をお聞かせください。

国連WFPは、飢餓の最前線で食糧支援の質と量を支え、自然災害や紛争などの緊急事態発生時には、食糧の緊急支援に加え物流とIT基地の確立そして支援要員の即時派遣をする等、総合的に食、人、物流、情報を統括し、他の国連機関やNPO、NGOの現場での活動を手助けするなど重要な役目を担っています。また、子どもたちに栄養と希望を届ける学校給食支援等も行っており、その重要性も強く訴え続けて行きたいです。

Q.今後の目標をお聞かせください。

国連WFPの活動と理念を日本の一般の人々に広く知ってもらい、その一人一人からのご支援がどのように世界の飢えや栄養不足に苦しむ人々に届けられているかを、しっかりお伝えし、これからもより多くの方々からのご支援とご協力が得られるよう努力して行きたいと思ひます。

Q.趣味やお休みの過ごし方を教えてください。

前職までストレスフルな生活を送って来た関係で、その解消法の一つとして始めた山や森の中

を歩くことが今は趣味となり、私の一番の休日の過ごし方となりました。時間的に余裕がある場合は、裏磐梯、奥会津、そして那須高原まで足を伸ばし、2~3時間歩き廻り、思い切り深呼吸をします。それが出来ない場合は自宅近くの緑の多い上野公園や東大の本郷キャンパスをもくもくと犬と一緒に歩いています。健康に良く、またエコ(環境的にも経済的にも)な趣味として友人達に勧めているところです。

Q.最後に読者へのメッセージをお願いします。

日々飢餓や貧困に苦しむ世界の声なき人たちに、少しでも笑顔をもたらす仕事に携われることに誇りと感謝の気持ちを持ち、これからも一層精進して参るつもりです。皆様からの引き続きのご支援、ご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



山や森を歩き自然にふれるのが一番の趣味です。

フィリピンに昨年11月8日に大型台風が襲来してから、5カ月が経過しました。国連WFPは、上陸直後から皆様に緊急支援募金へのご協力をお願いし、2013年12月31日までに個人、企業及び団体の皆様よりおよそ8,000万円のご寄付が寄せられました。多くの皆様に温かいご支援をいただき、心から感謝申し上げます。これまでに国連WFPが行った支援活動の概要をご報告します。国連WFPは、台風の上陸前から緊急支援の準備を開始し、上陸翌日の9日には国連WFPフィリピン事務所代表が調査のため現地入りしました。13日には、フィリピン社会福祉開発省との協力のもと、壊滅的な被害を受けた都市タクロバンに約5万人分の米を届けました。この後、急ピッチに活動を拡大し、上陸から14日後には300万人に米や栄養強化ビスケットなどの食糧を届けました。また、食糧配布と同時に物流網や通信網の整備にも取り組みました。国連WFPは緊急時、国連機関やNGOの支援物資の物流や

情報通信網の整備を先導する役割を担っています。そのため、物資保管のための可動式倉庫を設置したり、無線や電話、インターネットなどの通信環境を整備したりしました。

その後も支援地域を拡大し、12月以降は子どもたちの栄養不良を防ぐための栄養強化支援を行ったほか、復興が進み商業活動が再開された地域では、食糧の現物を配るのではなく、食糧を購入するための現金を配りました。2月20日までには米3万530トン、栄養強化ビスケット543トン、栄養強化食品140トンを届け、50万人以上に現金を給付しました。

現在では当初の緊急支援から復興に向けた支援へと移行しています。今後は、将来の災害対策強化も視野に入れたインフラの整備などを支援し、労働に参加した人には対価として食糧や現金を支給するといった支援も行っていく予定です。引き続き皆様のご支援をよろしくお願いたします。



乳幼児用の栄養強化食品を手にする孫を抱いて笑顔を見せる男性。

©WFP/Dale Rivera

私たちの国連WFP支援 株式会社日本アクセス



全社員集会以での募金活動の様子

食品卸大手の株式会社日本アクセスは、食を扱う企業として、2006年から国連WFPを支援しています。

評議員としての継続的な支援の他、年2回の社内募金を実施するなど、社員の方々と協力しながら支援を展開しています。

2013年のWFPウォーク・ザ・ワールドでは、協賛として参加するのみならず、オリジナルTシャツを作成し、社員・家族計56名がウォーキングに参加するなど、積極的な取り組みが行われました。

また同年には、全国7カ所で行われた全社員集会以にて、社員の皆さんが国連WFPについて理解できるよう、国連WFPのビデオを放映し、活動紹介のパネル、国連WFPが現地で実際に配布している食糧サンプル等の展示や説明等を

行い、募金活動も実施しました。会場では同社代表取締役社長田中様を始め、前向きに募金活動に参加する社員の様子が見受けられました。

これらの取組に対し、ご担当の法務・審査・コンプライアンス部CSR・環境管理課 山田昌子さんは「恵まれた国にいる私たちが、世界の飢餓を身近に捉えることはまだまだ難しいことですが、少しずつでも支援の輪が広がれば良いと思います。また直接現地に行くことができない私たちにとっては、国連WFPが代わりに活動してくれていると思っています。その活動を今後も継続的に支援していきたいと思っています。」と話しています。

国連WFPを支える人たち～国連WFP協会 横浜支部

国連WFP協会 横浜支部は、国連WFP協会の支部として、横浜を中心とした神奈川県で地域に根付いた国連WFP支援活動を行うため、2006年4月に設立された支援団体です。世界の飢餓問題を伝え、国連WFPの認知度向上と支援の輪を広げるための広報活動や、募金活動を行っています。

昨年11月のフィリピン台風の際は、国連WFPの事務所近くにあるコンサート会場、横浜みなとみらいホール1・2階ホワイエで、11月21日と12月11日の2回、フィリピン台風被災者支援のための緊急募金を実施しました。コンサートホールのため声を出して支援を呼びかけること

はできなかったのですが、「フィリピン台風の被災者にご支援をお願いします」と書かれた募金箱には多くの来場者から支援が寄せられ、計48,761円が集まりました。横浜支部は同ホールで緊急募金以外にも毎月のように募金活動をしており、その他にも国連WFPがイベント等に出展する際の協力や、街頭募金など、様々な形で国連WFPを支援しています。

今年2月7日には、運営委員会を開催し、現横浜支部代表の布施勉横浜市立大学学長に代わり、4月1日付で同大学の窪田吉信新学長が代表に就任することが決まりました。

皆様、いつも温かいご支援を誠にありがとうございます。



2013年4月に横浜みなとみらいホールで募金活動を実施した際の様子。

©JAWFP

国連WFPでは「皆さんの力で、給食が届く、世界がより良くなっていく。」を願いとして、「RED CUP CAMPAIGN」を展開しています。様々な企業が商品にレッドカップのマークを入れ、その売り上げの一部を寄付する取り組みを展開しています。2013年10月以降、新たにキャンペーンに参加して下さった企業をご紹介します。現在進行中、並びに過去の事例はレッドカップキャンペーンのサイト(www.redcup.jp)をご覧ください。

株式会社東邦銀行

投資信託商品(新興国に投資するファンド)の販売手数料の一部(2013年10月から)



すべてを地域のために
東邦銀行

©東邦銀行

株式会社ディノス・セシール

家具・収納通販誌Lysa Home(リーサホーム)での商品購入(2013年10月から)



©ディノス・セシール

カンロ株式会社

カンロ飴(2014年3月から2015年2月まで)



©カンロ



株式会社湖池屋

ポテトチップスのり塩5個パック(2014年3月から2015年2月まで)



©湖池屋



「WFPウォーク・ザ・ワールド」参加者募集

国連WFPは、5月18日(日)、「WFPウォーク・ザ・ワールド」を横浜みなとみらい地区で開催します。このチャリティーウォークは子どもたちの飢餓をなくすために実施し、今回で9回目を迎えます。参加費の一部は国連WFPの学校給食プログラムに役立てられます。ぜひ、ご家族・ご友人を誘って参加ください。



© JAWFP

申込締切	5月1日(木) (郵便振込)、5月7日(水) (ネット/電話)	 <p>地球の飢餓を救え。 WFP 国連世界食糧計画</p>
詳細	www.walktheworld.jp	
お申込み	①インターネットで ※携帯電話可 www.sportsentry.ne.jp スポーツエントリーホームページ内	②お電話で ※通話料は利用者負担となります。 0570-550-846 スポーツエントリー内 (受付時間：平日10:00～17:30)
お問い合わせ	0120-711-951 (スポーツエントリー内、受付時間：平日10:00～17:30)	

国連WFPでは皆様からの継続した支援を必要としています！

～世界の子どもたちに栄養と希望を～

世界には、一日に一度の食事すら満足に食べることができず、空腹状態のまま学校に通う小学生が6,600万人います。国連WFPは、世界約60カ国、2,000万人以上の子どもたちに栄養価の高い給食を届けています。過去45年間で38カ国が国連WFPの給食支援を卒業し、自力で学校給食が提供できるまでになっています。給食が食べられることで、子どもたちは学校に通えるだけでなく、集中して学習することができ、健康かつ希望あふれる毎日を送ることができるのです。学校給食が、その日唯一の食事となる子どもがたくさんいます。一日30円の給食で、子どもたちの未来をご支援ください。



例えば、**毎月 5,000円**
のご寄付を1年間で

子ども12人に栄養たっぷりの学校給食を1年間届けることができます。

*「毎月の寄付」のほかに、任意の金額を随時ご寄付いただく「今回の寄付」もごさいます。

寄付方法

- クレジットカードで
- 銀行またはゆうちょ銀行から
- 楽天銀行から

▼お申込み、お問い合わせはこちらから▼

 お電話	0120-496-819 受付時間 9:00～18:00(年末年始を除く毎日)
ウェブサイト	www.wfp.org/jp

※国連WFPへのご寄付は、寄付金控除など税制上の優遇措置を受けられます。



© WFP / Rein Skullerud